

## 農業機械士養成研修（けん引）報告

田中 明良（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

現在の業務において農場内の作業ではトラクターでのけん引免許が必要とされる。そのため本研修を受講することでトラクターでのけん引作業を円滑に進めることができ安全に使用できるようになる。

### 2. 期間・場所

期間：練習日 平成22年12月6日（月）～  
10日（金）・13日（月）

試験日 平成22年12月14日（火）

場所：練習 広島県庄原市是松町55-1

試験 三次市畠敷町1, 880の11

### 3. 参加者等

受講者：15名

### 4. 研修内容

平成22年12月6日（月）～10日（金）・13日（月）

トレーラけん引の基本運転

平成22年12月14日（火） 免許試験

### 5. 所感

今回の講習では、トラクターの運転だけではなくトレーラをけん引するため後退走行運転の方法や方向転換の操作方法が難しく、特に安全面（左右確認・巻き込み確認）については何度も指摘された部分でした。そのため、農場内での運転は安全に最大限留意し、運転技術をしっかり身に付け作業を行っていきたいと思いました。

## 農業機械士養成研修（けん引）受講報告

山口 哲平（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、飼料生産時の堆肥散布等にトラクターとトレーラを使用する。けん引運転技術の向上と知識の習得のために本講習を受講し、円滑に業務を行うべくけん引免許資格取得を目指すものである。

### 2. 期間・場所

研修期間：平成22年12月6日（月）～13日（月）、  
※土日除く6日間

研修場所：広島県立農業技術大学校  
(広島県庄原市是松55-1)

試験日：平成22年12月14日（火）

試験場所：広島県自動車運転免許三次試験場  
(広島県三次市畠敷町1880-11)

### 3. 参加者等

受講者：15名（農業技術大学校生徒含む）

### 4. 研修内容

12月6日（月）～13日（月）

農業技術大学校にてけん引運転練習

12月14日（火）

三次試験場にて実技試験

(普通自動車免許により学科試験は免除)

### 5. 所感

今回の研修では、トラクタのけん引運転についての基礎から学べたので、普段の作業時にも生かせる技術を習得できた。また、公道を実際に走ることはほとんどないが安全確認や指示出しなど、当センター内でも重要となってくるので気をつけて運転していきたい。

## 刈払機安全衛生教育受講報告

松村 謙吾（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、圃場周辺のけい畔及び施設周辺の除草作業に刈払機を使用する。その際、労働者の安全、健康そして快適な作業環境の形成を促進することを目的に、安全衛生教育を受講するよう定められている（労働安全衛生法）。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年6月14日（月）

場所：キャタピラー教習所(株) 中国教習センター 広島教習所

(広島県広島市安芸区中野東1-7-1)

### 3. 参加者等

受講者：11名

### 4. 研修内容

9：00～学科講習

### 5. 所感

今回の安全衛生教育講習では、学科講習のみであったので、整備や点検の方法など刈払機に関する知識についての指導をうけた。刈払機は安価でシンプルな構造をしているので、安全対策を行えば取り扱いやすい機械であるといえる。刈払機による事故では、不安定な場所での転倒やキックバック等による刈刃の接触によって、裂傷事故がもっとも多く、注意が必要であると感じた。また、当農場でも夏場に刈払機を使用することが多く、スズメバチやマムシ等の害虫対策も必要で、害虫は気をつけていても遭遇する危険があるので、遭遇した場合は慌てず行動する必要があると感じた。

### 「アーク溶接等業務特別教育」受講報告

平松正太郎(工作部門土木建築実験機器管理班)

#### 1. はじめに(目的等)

アーク溶接機を用いて行う金属の溶接、溶断等の業務に従事するために、「アーク溶接等業務 特別教育」を受講する必要がある、この度受講した。

#### 2. 期間・場所

期間 学科教育：平成22年11月29日、30日  
(実技は各事業場で実施 工学研究科  
実験棟で下川久義 技術専門職員の指  
導の下、平成22年12月1日、2日に実施)

場所 広島県労働基準協会広島中央支部  
広島市林業ビル8階中教室

#### 3. 参加者等

受講者 54名

#### 4. 研修内容

学科教育：アーク溶接等の基礎知識、電気に関する基礎知識、アーク溶接装置の概要、交流アーク溶接機用自動電撃防止装置、溶接材料お

よび関連器具・装置、配線、溶接作業前点検と整備、溶接等の作業方法、災害防止、災害事例、関係法令(計11時間)

実技教育：アーク溶接装置の取扱い及びアーク溶接等の作業の方法について(10時間以上)

#### 5. まとめと感想

今回の講習では、講師の方が数多くの災害事例を話された。それだけ溶接作業は使用者のみならず周辺の人・物に被害が及ぶ可能性が高いという事だろう。周りにしっかり気を配るよう心がけたい。実際の溶接作業に関しては、テキストにも書いてあったように“習うより、慣れる”という側面が大きい。反復練習でしっかりとした技術を身につけたい。

### アーク溶接等業務特別教育受講報告

山口 哲平(フィールド科学系部門生物生産技術班)

#### 1. はじめに(目的等)

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、牛舎や機械の修理など金属加工を行う。その際金属の溶接技術が必要になる。そこで本講習を受講し、安全かつ円滑に業務を行うべく資格取得を目指す。

#### 2. 期間・場所

期間：平成23年2月21日(月)、22日(火)、  
場所：(社)広島県労働基準協会 広島中央支部  
(広島県広島市中区上八丁堀8-23  
林業ビル8F)

#### 3. 参加者等

受講者：学科講習 約30名、

#### 4. 研修内容

学科講習

1. アーク溶接の基礎知識
2. アーク溶接装置に関する基礎知識
3. アーク溶接等の作業方法に関する知識
4. 関係法令

実技講習

当ステーションにおいて有資格者の指導の

もと行う。

## 5. 所感

今回の特別教育講習では、学科講習受講後に実技教育は、当ステーションで受講する形になっており、実際に溶接する場合は先輩技術員の指導を受けながら操作する必要がある。アーク溶接においては、汗などにより身体や衣服が湿っている場合、非常に電気が流れやすくなる（抵抗の低下）ので、感電の恐れがあり注意が必要である。また、今回の講習でも日頃からの日常点検や安全に対する心構えが重要であると感じた。

## 伐木作業・チェーンソーの取扱特別教育受講報告

田中 明良（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

現在の業務において農場内や放牧地などの整備で倒木の処理を行うためには伐木作業・チェーンソーの取扱特別教育の講習を受講しなければならない。そのため本講習を受講することでチェーンソーを安全に使用することが出来るようになり、知識や技能を修得し円滑に業務を円滑に進めることができる。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年1月21日（金）・22日（土）

場所：広島県広島市安芸区中野東1-7-1

### 3. 参加者等

受講者：6名

### 4. 研修内容

1月21日（金）学科講習

1月22日（土）実技講習

### 5. 所感

今回の講習では、チェーンソーの構造や取り扱い方法・点検や整備方法について指摘を受けました。チェーンソーは伐木をするためにおいてとても重要な作業機械ですが、作業における災害が多く発生しております。そのため、災害を防止するためには知識と技術を身に付け点検整備を十分に行っていき作業の際には最良の性能を

発揮できるようにし安全確認をしっかりと行い作業に臨んでいきたいと思えます。

## 自由研削といし取替え等業務特別教育受講報告

山口 哲平（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、牛舎や機械の修理など金属加工を行う。その際金属の研削や研削といった技術が必要になる。そこで本講習を受講し、円滑に業務を行うべく資格取得を目指す。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年2月24日（木）、

場所：志和教習所（広島県東広島市）（社）広島県労働基準協会

### 3. 参加者等

受講者：約20名

### 4. 研修内容

2月17日（木）

9：00～学科講習

○研削盤・研削といしに関する基礎知識

○研削と石の装置に関する基礎知識

○研削と石の取り付け及び試運転

○関係法令

14：15～実技講習

### 5. 所感

今回の特別教育において、グラインダには用途や加工物によりさまざまな種類があり、加工目的により適切な砥石を選択して加工する必要がある。また、と石を取り替える際は、該当すると石を使用し安全確認を行った後に使用することで、安全に作業でき、自分のみならず周りの人の安全にもつながると感じた。

## 自由研削といし取替え等業務特別教育受講報告

積山 嘉昌（技術センター フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

業務において、畜舎や場内の牧柵、作業機の修繕作成にグラインダ作業が必要となる。その

ため本講習を受講することで、グラインダを安全に使用することが出来るようになり、業務を円滑に進めることができる。

## 2. 期間・場所

期間：平成23年2月24日（木）

場所：(社)広島県労働基準協会 志和教習所  
(東広島市志和町大字七条椋坂字太刀掛493-250)

## 3. 参加者等

受講者：20名

## 4. 研修内容

### ・学科講習

研削盤に関する基礎知識，研削といしに関する基礎知識，研削といしの取付け具に関する基礎知識，研削といしの覆い，保護具等に関する知識，研削といしも取付けと試運転の方法，災害事例と関係法令

### ・実技講習

卓上グラインダ，ディスクグラインダ，切断機のといしの付替え使用

## 5. 所感

職務に従事する際に必要になる知識を基本的事項から，実務上にかかわる事項を学ぶことができた。常に基礎基本を心がけて業務を遂行したい。

## ガス溶接技能講習受講報告

山口 哲平(フィールド科学系部門生物生産技術班)

### 1. はじめに (目的等)

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは，牛舎や機械の修理など金属加工を行う。その際金属の溶接，溶断といった技術が必要になる。そこで本講習を受講し，円滑に業務を行うべく資格取得を目指すものである。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年2月17日（木），18日（金），  
場所：志和教習所（広島県東広島市）(社)広島県労働基準協会

### 3. 参加者等

受講者：学科講習 約40名，実技講習25名。

### 4. 研修内容

2月17日（木） 学科講習

2月18日（金） 学科試験及び実技講習

### 5. 所感

今回の特別教育において，それほど恐怖もなく使っていた可燃性ガスや支燃性ガスの取り扱いには十分注意が必要であると感じた。特にアセチレンガスは目に見えず臭いもしない。また，発火温度も低く空気中における爆発範囲も大きい。しっかりと手順を守り定期的な点検が重要であると感じた。

## アーク溶接業務特別教育受講報告

田中 明良(フィールド科学系部門生物生産技術班)

### 1. はじめに (目的等)

現在の業務において畜舎の修理や酪農器具・機械の修理には切断作業や溶接作業をとこなう事がありアーク溶接機を用いて作業を行う。アーク溶接は危険有害業務であるため特別教育を受講しなければ使用することができない。(労働安全衛生法) そこで本講習を受講し，円滑に業務を行うべく資格取得を目指すものである。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年2月21日（月）21日（火）

場所：(社)広島県労働基準協会

広島中央支部広島市林業ビル8階

### 3. 参加者等

受講者：学科講習35名

### 4. 研修内容

2月21日（月） 学科講習

2月22日（火） 学科講習

### 5. 所感

アーク溶接は取り扱いが容易で設備費が安価なため造船業，建設業をはじめとする幅広い業種において行われていますが溶断等の作業は電気を使用するため感電による災害や火災災害が多く発生しており依然として跡を絶たない状況

にあり、その事故原因の多くは溶断作業の誤りや溶接機の点検・整備の不良によるものです。そのため、点検・整備・安全確認をしっかりと行い今後は、上記の点に留意しつつ作業に従事していきたいと思いました。

## 化学物質リスクアセスメント専門研修（健康障害防止コース）受講

坂下 英樹（技術センター 共通機器部門）

### 1. はじめに（目的等）

化学物質リスクアセスメントとは、化学物質等への暴露等により引き起こされる有害な事象の発生確率とその影響の大きさを見積もる手法です。厚生労働省により指針が定められており、近い将来法制化される可能性もあります。その手法を学び、大学の安全衛生管理の向上に役立てたいと考えて受講しました。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年1月25日、26日

会場：中央労働災害防止協会 中国四国安全衛生サービスセンター（広島市）

### 3. 参加者等

企業などの安全衛生管理担当者 約20名

### 4. 研修内容

(1) 健康影響リスクアセスメント概論、(2) 暴露評価（作業環境測定、個人ばく露測定、生物学的モニタリング、推計モデル等）、(3) リスク低減対策（工学的対策、個人保護具等）、(4) 有害性評価（各種毒性解説、用量反応、不確実性係数、ベンチマークドーズ、ユニットリスク等）、(5) ILO 方式、JISHA 方式での具体的な情報の使用方法、(6) ILO コントロールバンディングを利用したリスクアセスメント手法の解説（講義+事例紹介）、(7) ILO コントロールバンディングを利用したリスクアセスメント手法の解説（演習+解説）、(8) JISHA 方式化学物質リスクアセスメントマニュアル（健康障害防止）の解説（講義+事例紹介）、(9) JISHA 方式化

学物質リスクアセスメントマニュアル（健康障害防止）の解説（グループ演習+発表+講評）（講師：1, 2, 4(社)日本化学工業協会 花井 荘輔, 3, 5-9中央労働災害防止協会技術支援部化学物質管理支援センター 棗田 衆一郎）

## 5. まとめと感想

MSDS に記載の有害性の GHS 分類結果（急性毒性、発がん性等）等を利用して有害性のランク分けを行い、取扱量のランク分け、発じん性又は揮発性のランク分けを経てリスクレベル（1～4）の判定を行います。リスクレベルに応じた低減対策例、参考文書が用意されています。有機則、特化則の対象でない化学物質についてもこの手法は使えます。使用している化学物質についてリスクアセスメントを行って、適切な対策が現在取られているかチェックし、もし見逃しているリスクがあれば適切な対策を行う、といった使い方ができます。身の回りのチェックから始めてみたいと思います。

## ガス溶接技能講習受講報告

田中 明良（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

現在の業務において畜舎の修理や酪農器具・機械の修理には切断作業や溶接作業をとまなう事があり可燃性ガス及び酸素を使用して溶接、溶断を行う。可燃性ガスを使用し不適切な取り扱いによる労働災害を防ぐためガス溶接技能講習を受講しなければガス溶断器を使用することができない。そこで本講習を受講し、円滑に業務を行うべく資格取得を目指すものである。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年2月17日（木）18日（金）

場所：志和教習所（広島県東広島市）(社)広島県労働基準協会

### 3. 参加者等

受講者：学科講習40名

実技講習26名

#### 4. 研修内容

2月17日（木）学科講習

2月18日（金）実技講習

#### 5. 所感

可燃性ガス及び酸素を使用して行う溶接，溶断，加熱の作業は，造船，鉄鋼，建設業など多くの産業で行われていますが，可燃性ガスであるアセチレンや支燃性ガスである酸素を使用することから，溶接装置等の欠陥や取り扱い方法の誤り，不適切な管理に起因して，爆発・火災等の重大な災害が多く発生しています。また，アセチレンは爆発力が強く空気などの支燃性ガスが存在しなくとも，点火源や衝撃があれば分解爆発をするため十分注意して取り扱わなければならないと指摘を受けました。そのため，ガス溶接断の作業にあたる時は，溶接装置等の点検・整備・安全確認をしっかりと行い最大限安全に気を配り，作業を行っていきたいと思いました。

#### 第6回（平成23年度）情報技術研究会

京泉 敬太（工作部門・技術主任）

新開 薫（共通機器部門・技術主任）

##### 1. はじめに（目的等）

技術職員の職務において教育や研究を支援するため，スキルの向上や業務の効率化を目的とする情報技術研究会は，主に大学等の情報基盤系の機関に所属する職員が集まって技術報告（研究発表）や積極的な意見交換が行なわれている。今回，情報技術の進歩に伴って発生する，新しい技術や技能の取得を目的とし，創意工夫を得るための情報交換と情報収集を行なった。

##### 2. 期間・場所

期間：平成23年度3月15日～16日（2日間）

場所：九州工業大学情報工学部

（飯塚キャンパス）

##### 3. 参加者

大学等に所属する技術職員 約64名

#### 4. 研修内容

（1日目）

・職員発表（技術発表）の聴講（11名）

（2日目）

・職員発表（技術発表）の聴講（2名）

・特別講演（ものづくりの基盤としての金型と情報技術）

#### 5. まとめと感想

今回の情報技術研究会において「ものづくりの基盤としての金型と情報技術」特別講演を聴講した。ものづくりにおいて情報技術等の関連性は少ないと最初は思っていたのだがCAD，CAM等が現場において使用される現在では，図面のCAD化等が必要になってくる。データ化されれば技術力は不要になるのでは？と思っていたが単にデータを入力しただけでは金型が完成できない，小さなノウハウがあってはじめて金型が完成される。情報系だけで活かせる分野と現場のノウハウがあってこそ活かせる分野があるのが良く分かった。今後は分野に囚われず現場において経験を積み重ね技術・情報を教育研究支援業務に役立てたいと思う

#### 「フォークリフト運転技能講習」受講報告

平松正太郎（工作部門土木建築実験機器管理班）

##### 1. はじめに（目的等）

最大荷重1t以上のフォークリフトを運転する業務に従事するために，「フォークリフト運転技能講習」を受講する必要がある，この度受講した。

##### 2. 期間・場所

期間 学科教育：平成23年2月22～25日

場所 広島クレーン学校 広島校

##### 3. 参加者等

受講者 25名

##### 4. 研修内容

学科教育：走行に関する装置の構造および取扱いの方法に関する知識，荷役に関する装置の

構造および取扱いの方法に関する知識，運転に必要な力学に関する知識，災害事例，関係法令（2月22日 計7時間）

実技教育：走行の操作，荷役の操作

（2月23～25日 計24時間）

## 5. まとめと感想

フォークリフトは重量物を運ぶため車体自体も非常に重く，また自動車と違ってタイヤは後輪を操作するため，普段と違い運転が難しい。車体の転倒や荷物の落下は大事故につながる可能性が高いので，早く操作・運転に慣れて，安全に作業できるよう努力したい。

## 第43回日本臨床細胞学会細胞検査士資格2次試験

法村 真一（医学系部門 基礎社会医学班）

### 1. はじめに（目的等）

細胞検査士資格を取得する事で業務の幅を広げ，細胞形態学に関する知識・技術を身につけ，スキルアップを図る事を目的とする。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年12月11日（土）～12日（日）

場所：東京富士大学

### 3. 参加者等

受験者：432名（全国）

### 4. 試験内容

スクリーニング試験 全領域 30問  
（1問につき5分）

細胞同定試験 全領域 30問  
（1問につき1分30秒）

実技試験 細胞診標本作製 3分以内

### 5. まとめと感想

日本臨床細胞学会主催の細胞検査士資格2次試験が東京にて開催された。

2次試験では，組織標本作製し，顕微鏡下で観察・判定する実技試験が行われた。具体的には標本を全視野観察して異常細胞を検出する，プレパラートを3分以内に作製し，減点方式で評価する試験も行われた。

今回，初めて受験して，慣れと経験が点数に反映される傾向にあり，思った以上に難しいものであった。

## 中国・四国地域大学附属農場協議会

山城 英和（フィールド科学系部門生物生産技術班）

山口 哲平（フィールド科学系部門生物生産技術班）

### 1. はじめに（目的等）

当農場は中国・四国地域大学附属農場協議会に属しており，今年度は愛媛大学にて開催された。協議会では会議に加え施設見学も同時に開催され，中国・四国地域の農場関係職員との交流や情報交換を行うことを目的に参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年7月29日（木）～30日（金）

場所：愛媛大学農学部

（愛媛県松山市樽味3丁目5番7号）

にぎたつ会館（愛媛県松山市道後姫塚118-2）

### 3. 参加者等

中国・四国地域の附属農場関係教員，事務職員及び技術職員 37名

### 4. 研修内容

7月29日（木）施設見学

12：30～13：00 受付（農学部会議室）

13：00～13：20 スケジュール説明及び自己紹介等

13：00～ 農学部出発

<移動（バス）>

14：00～15：00 工場見学

（イセキ松山工場）

<移動（バス）>

15：30～16：30 農学部附属農場見学

（松山市八反地）

<移動（バス）>

18：30～20：30 懇親会 にぎたつ会館

（道後）

30日（金）会議

8：40～9：00 受付（農学部会議室）

9：00～10：00 技術職員体験発表

- ①「ブドウ『ピオーネ』の果実品質に及ぼす着果量の影響」

岡山大学農学部附属山陽圏

フィールド科学センター 山本 昭

- ②「白色透湿性シートによるカンキツの貯蔵効果について」

愛媛大学農学部附属農場 河野 貴幸

- ③「水稲綿マルチ直播栽培における水稲生育・収量・品質及びマルチ分解に伴う養分動態」

愛媛大学農学部附属農場 阿立 真崇

10:00～12:00 全体会議

12:00～ 解散

## 5. 所感

各大学も予算削減、人員削減など農場の縮小方向に向かっている。そんな中でもしっかりと農場をアピールし、利用度のアップを図っていくことが必要だと感じた。また、他大学では農場が遠方にあり、利用しにくい大学が多い中、当農場は学部近く中四国でも唯一乳牛を飼養しているなどの特色がある。このような特色を生かして農場の活性化につなげていきたい。

## 総合技術研究会参加報告

開内 幸治(共通機器部門・情報基盤機器管理班)

### 1. はじめに(目的等)

今回参加した総合技術研究会は日常業務から生まれた創意工夫や失敗事例などを含めた参加者の技術交流と技術向上を図ることを目的としている。口頭発表を行うと共に、業務に関係する情報収集するため参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年3月17日～18日

場所：熊本大学黒髪キャンパス

### 3. 参加者等

大学、高等専門学校等に所属する技術職員

### 4. 研修内容

技術職員の今後を考えるシンポジウム in 熊本大学、開会式後に特別講演について聴講し、機

械工作・ガラス工作技術分野、装置関係技術分野、回路・計測・制御技術分野、極低温技術分野、情報・ネットワーク技術分野、生態・農林水産技術分野、**生命科学技術分野**、分析・評価技術分野、実験・実習技術、地域貢献分野、建築・土木技術分野、環境・安全衛生管理技術分野の合計12分野の口頭発表、ポスターセッションについて聴講と口頭発表を行った。

## 5. まとめと感想

担当している業務に係る情報・ネットワーク技術分野、実験・実習技術・地域貢献分野について聴講と今年度実施した中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修の一部分である分野別実習の実施報告を口頭発表にて行った。他大学等の技術職員の発表を聞き、参考になった。特に技術職員の今後を考えるシンポジウム in 熊本大学に参加して、他大学の技術職員の現状や、考え方を知ることができ、非常に有意義でした。各大学等によって業務の方針が異なっているため単純に参考にはできないが、自分の業務や今後の方針について再考すべきだと感じた。

## 平成22年度熊本大学総合技術研究会参加報告

(代表報告者) 村上 義博(技術センター)

向井 一夫(技術センター)

勇木 義則(技術センター)

石原 正文(技術センター)

### 1. はじめに(目的等)

本研究会は大学、高等専門学校および大学共同利用機関のあらゆる分野の技術者が一同に集う全国規模での唯一の技術研究会である。将来の広島大学での開催も視野に入れて、運営状況および研究発表状況の視察と各校のトップ(技術長等)との連携を図ることを目的に参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年3月17日、18日

会場：熊本大学黒髪キャンパス

### 3. 参加者等

国立大学法人・大学共同利用機関・国立高等



専門学校機構などの技術職員 約800名

(参加者申込は約900名であったが、東日本大地震の影響で100名程度の不参加となった)

#### 4. 研修内容

向井統括は、当研究会に先立ち開催された「技術職員の今後を考えるシンポジウム」にパネリストとして参加し、熊本大、名工大、鳥取大、三重大の他の著名なパネラーとともに立ち見が出るほど盛況の中、中核的な役目を果たした。

石原部門長は、実験実習技術研究会運営協議会に参加し、約20名の他機関の代表的立場(代表者について厳密な取り決めはなされていない)の方々とは次回以降開催校や運営の在り方などについて意見交換を行った。また、研究会においても座長を務めた。

勇木技術副統括と村上技術副統括は、総合技術研究会運営協議会に参加し、約30名の他機関の代表的立場(前述同様)の方々とは総合技術研究会の次回以降開催校や運営の在り方などについて意見交換を行った。

また、研究会においては、広島大学技術センターから宇都技術主任、開内技術員、土橋技術員が発表を行い、石原部門長、村上技術副統括が視聴した。

<参考>

発表分野：

機械・ガラス工作技術分野、装置関係技術分野、回路・計測・制御技術分野、極低温技術分野、情報・ネットワーク技術分野、生態・農林水産技術分野、生命科学技術分野、分析・評価技術分野、実験・実習技術、地域貢献分野、建築・土木技術分野、環境・安全衛生管理技術分野

口頭発表：269件

ポスター発表：252件

#### 5. まとめと感想

今回の研究会は、東日本における震災の影響もあって多数の参加できない技術職員が出たが、その人たちの分も盛り上げてこの研究会を

有意義なものにしていこうという雰囲気が感じられた。初日に行われたシンポジウムは、会場が二転三転するほど皆の関心が高く、活発な意見交換が行われた。特に、先行して組織化を推進している広島大学への関心が高く、向井技術統括への質問がかなりあった。各セッションにおいても活発に議論がされていた。広島大学技術センターが全国的に注目を浴びている技術支援組織であることを広島大学技術職員の一人一人が自覚し、誇りを持って研鑽してほしいと強く感じる場所である。

また、宇都氏、開内氏、土橋氏の発表は、それぞれ素晴らしいものであった。広島大学技術研修会での発表の成果の一つと考えたい。今回研究会聴講を通して、この研究会の特徴と考えられる様々な分野(視点)からの鋭い質疑に困惑する状況を垣間見、他流試合には向いている研究会との印象を持った。今後は、特に若手を中心にこの研究会への参加・発表を推奨し、様々な経験を積ませたいと考える。

#### 大阪大学工学研究科技術部との情報交換及び産学官連携若手専門人材育成セミナー【技術職員の能力開発】に参加

向井 一夫(技術センター)

勇木 義則(技術センター)

石原 正文(技術センター)

##### 1. はじめに(目的等)

本セミナーは、北陸先端科学技術大学院大学の主催で、文部科学省イノベーションシステム整備事業の一環として、大学及び高等専門学校の技術職員の能力開発に関するものであり、特に技術職員を取り巻く課題とそれを克服するための手がかりとなる演題であったため参加した。また、他大学の技術職員と情報交換等を目的とした出張であった。

##### 2. 期間・場所

期間：平成23年1月27日、28日

会場：1月27日 大阪大学 工学研究科技術部

1月28日 北陸先端科学技術大学院大学 東京サテライト

### 3. 参加者等

国立大学法人・大学共同利用機関・国立高等専門学校機構・などの技術職員 約60名

### 4. 研修内容

- ・講演①「企業が求める研究開発を担い支える即戦力」  
東邦チタン株式会社 理事 菅野利彦
- ・講演②「研究機関における技術職員の役割と産学連携促進の可能性～海外大学事例の紹介も含めて～」  
独立行政法人理化学研究所 研究戦略会議 研究政策企画員 高橋真木子
- ・講演③「沖縄工業高等専門学校における技術職員の能力開発の考え方」  
沖縄工業高等専門学校 技術支援室 技術専門職員 藏屋英介
- ・パネルディスカッション 「技術職員の能力開発についての方向性」

### 5. まとめと感想

今回のセミナーでは、技術職員に対して如何に人材育成をするか、事例として企業での新人社員教育システム、研究機関での技術職員の役割等、工業高等専門学校における現場での人材育成の講演があった。それぞれの立ち位置は違うが、必要とされている技術の伝承と新たな技術の修得については、共通した課題とされていた。また、「人材」は、「人財」で、現有の技術力をどのように活用していくかも問われていた。集約されている広島大学技術センターも人材の有効活用次第で、今後の展開に影響すると思われた。

## 平成22年度熊本大学総合技術研究会参加報告

宇都 武司（フィールド科学系部門）

### 1. はじめに（目的等）

総合技術研究会

総合技術研究会は大学、高等専門学校およ

び大学共同利用機関の技術者が、日常業務で携わっている広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する研修会です。日常業務から生まれた創意工夫や失敗談なども重視し、技術者の交流と技術向上を図ることを目的としています。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年3月17日（木）・18日（金）

場所：熊本大学黒髪南キャンパス

### 3. 参加者等

国立大学法人・大学共同利用機関・国立高等専門学校機構などの技術職員 約800名

### 4. 研修内容

17日（木）：技術職員の今後を考えるシンポジウム in 熊本大学，総合技術研究会開会式，特別講演を聴講し，B会場：生命科学技術分野を聴講し，集中技術交流で口頭発表を行なった。また，機械工作・ガラス工作技術分野，装置関係技術分野，回路・計測・制御技術分野，極低温技術分野，情報・ネットワーク技術分野，生態・農林水産技術分野，生命科学技術分野，分析・評価技術分野，実験・実習技術，地域貢献分野，建築・土木技術分野，環境・安全衛生管理技術分野の合計12分野のポスターセッションを聴講した。

18日（金）：A会場：生態・農林水産技術分野を聴講した。

両日とも空き時間に熊本大学の公開施設を見学した。

### 5. まとめと感想

技術職員の今後を考えるシンポジウム in 熊本大学は，他大学の技術職員に様々な現状があり，広島大学の組織化が参考にされていた。特別講演は「太陽光発電システムの現在と未来」で，発電効率がもう少し良くなり，安くなれば温室の遮光幕に使えるのではと思った。技術分野の聴講はA・Bどちらの会場も参考になる話を聞くことができた。口頭発表は質疑応答により新たな課題を見つけることができた。ポスター

セッションは、実験動物の微生物学的検査や地震対策などが興味深かった。

また、熊本大学のものクリ工房を見学し学生の顔写真つきの機器利用講習修了証カードが何かにつかえないかと参考になった。

## 平成22年度 熊本大学 総合技術研究会

土橋 誠 (工作部門)

### 1. はじめに (目的等)

全国の大学・高等専門学校及び共同利用研究機関で技術業務に携わっている技術職員が、教育研究支援活動を発表し、意見交換を目的とする研究会である。また、日常業務から生まれた創意工夫や失敗事例などを含め参加者の技術交流と技術向上を図ることも目的の一つである。今回、私は教育研究支援活動を発表する為、参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年3月16日～18日

場所：熊本大学 黒髪キャンパス

### 3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員 700名以上

### 4. 研修内容

本研究会開会前に「技術職員の今後を考えるシンポジウム in 熊本大学」・「特別講演」・「基調講演」が開かれた。その後開会式を経て、11の分野で口頭発表・ポスターセッション発表が行われる。私は装置関係分野において口頭発表を行い、分野別の口頭発表・ポスターセッション発表を聴講した。また、17日に情報交換会が開かれた。

### 5. まとめと感想

私が現支援業務を発表することにより、全国の他機関と活発な論議ができ有意義であった。情報交換会では担当業務の計測手法やソフトウェアについて意見交換ができ、役立つ情報を得ることができた。また、熊本大学のものクリ工房等を見学し施設職員の業務を見ることがで

き参考になった。

## 第37回 臨海・臨湖実験所・センター技術職員研修会議

山口 信雄 (技術センター フィールド科学系部門生物科学班 技術主任)

### 1. はじめに (目的等)

本出張は臨海・臨湖実験所・センターにおける技術職員のスキル・知識向上と情報交換を目的とし、近年の各自における近況及び研究成果などを発表する。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年10月20～22日

場所：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター 合津マリンステーション

### 3. 参加者等

全国各地の臨海実験所 (15施設以上) よりオブザーバー含め20名強

### 4. 研修内容

向島臨海実験所近況を報告し、ヒメギボシムシ幼生飼育に関する発表を行った。

また、他臨海実験所の近況並びに研究報告を受けた。さらに、各臨海実験所の所有船舶状況の確認を行った。臨海実験所所長会議からは、臨海実験所が今後特に教育拠点として重要視されてくること、勤務時間処理の問題について報告があった。

向島臨海は各実験所における休日の一般利用者への対応と鍵の管理等のアンケートも行った。

### 5. まとめと感想

3年ぶりに各地の技術職員との旧交を温めることができ、その間の向島臨海での研究成果報告を行うことができた。また、向島臨海実験所で問題になっている休日の実験所利用及び管理責任に関して、他臨海実験所は基本的に平日に利用してもらうケースがほとんどであるとのアンケート結果を得た。労働時間管理は各実験所でも大きな問題となっており、実態に則さない管理システムへの対応の苦慮が報告された。ま

た、平成に入ってから船舶を更新していないのは向島臨海ともう一ヶ所のみであることが確認された。

## 平成22年度熊本大学総合技術研究会

藤高 仁（共通機器部門）

### 1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の技術者が、広範囲な技術的研究支援活動について発表するものである。通常業務の範囲内のみならず、他の分野における基本的・一般的な知識および新たな専門的な知識の習得・技術向上、情報交換を目的として参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成23年3月17日・18日

場所：熊本大学・黒髪キャンパス

### 3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員

### 4. 研修内容

総合技術研究会開催に先立ち技術職員の今後を考えるシンポジウム in 熊本大学が開かれ、その後総合技術研究会開会式が行われた。

機械工作・ガラス工作技術、装置関係技術、回路・計測・制御技術、極低温技術、情報・ネットワーク技術、生態・農林水産技術、生命科学技術、分析・評価技術、実習・実験技術地域貢献、建築・土木技術、環境・安全衛生管理技術の各分野における口頭発表聴講、およびポスターセッションにて情報交換を行った。

### 5. まとめと感想

全国の学術機関に所属する技術職員が一堂に会し日頃の業務にまつわる創意工夫を聞くことができ大変有意義であった。担当装置についての発表も複数あり今後の装置維持管理や測定サービスに大変役立つ情報を得る事ができた。

シンポジウムでは多くの参加者により活発な討論が行われ技術職員の将来について、関心の高さをうかがい知ることができた。

## 平成22年度放射線安全管理講習会参加報告

寺元 浩昭（共通機器部門放射線管理技術班）

### 1. はじめに

放射線や放射性同位元素等を取り巻く状況は日々変化しており、特に今年度は、5月に放射線障害防止法が改正され、廃棄物のクリアランス制度が導入された。また平成21年10月には施行規則が改正されており、放射性同位元素等の安全管理を行う上で、非常に重大な変化がある。これらの最新のトピックスに関する文科省の担当官の講演などがあり、非常に有用な講習会である。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年11月24日（水）

場所：KKR 広島（広島市）

### 3. 参加者等

主に広島県内の放射線管理業務従事者等 70名程度

（技術センターよりほかに辻村技術専門員、菅技術班長、笹谷技術員が参加）

### 4. 研修内容

講演Ⅰ. 最近の放射線安全行政の動向

Ⅱ. 放射線障害防止法上の手続等について

Ⅲ. 安全管理の留意点（密封された放射性同位元素の所在不明をなくすために）

Ⅳ. 事業所における安全管理の経験（事故から学ぶ、安全管理）

Ⅴ. 放射線審議会基本部会におけるICRP 法令取り入れ議論

質疑応答

### 5. まとめと感想

講演Ⅰ、Ⅱでは、文部科学省の担当官より新法令の施行に向け、検討中の事項についてなど、とても重要な講演を聞くことができた。

また、講演Ⅲ、Ⅳでは安全管理に関する事故事例等などの話も聞くことができ、今後の実務を行っていく上で、非常に参考になる講演だった。

近年は、放射線関連の法令が次々と改正され

ており、常に最新の情報を得るため、このような講習会が重要になっている。今後もこのような講習会を通じて情報を得て、安全管理に役立てていきたいと考えている。

## 伐木等の業務に係る特別教育講習会参加報告

仲井 敏 (フィールド科学系部門)

### 1. はじめに

過日、受講した刈払機取扱作業安全衛生教育講習会に引き続いての受講であるが、施設周辺の環境整備を行う上で共に必要な講習会である。講習会を受講し正しい情報を得る事で安全な作業を行いたい。

### 2. 参加日時および場所

2010年6月24日 (木曜日) 9:00 ~ 18:00

2010年6月25日 (金曜日) 9:00 ~ 18:00

以上、2日間

広島北部地域職業訓練センター

(三次市酒屋町306-69)

### 3. 講習内容

講義 (8時間)

伐木作業に関する知識 (3時間)

チェーンソーに関する知識 (2時間)

振動障害及びその予防に関する知識 (2時間)

関係法令 (1時間)

実習 (8時間)

伐木作業の方法 (4時間)

チェーンソーの操作 (2時間)

チェーンソーの点検及び整備 (2時間)

### 4. まとめと感想

2日間に渡る特別教育で、伐木を行う為に使用するチェーンソーの安全な使用方法や法的位置付け、また、必要最低限の整備方法など多くの事を学んだ。それらの情報は常に初心でいることで有効に機能するように思えた。これからの事、そのことに留意して安全に業務を行いたい。

## 技術センター専門分野別技術研修会(生物科学班)

窪田 浩和 (フィールド科学系部門)

山口 哲平 (生物生産技術班)

### 1. はじめに (目的等)

臨海実験所の施設を見学し、各自の知識を深める。特に隔離地ならではの業務について相互に理解する。また、実際に臨海実験所で行われている業務などを体験することにより、さまざまな知識を習得する。さらに普段なかなか接することのできないメンバーの交流・親睦を深めることなどを目的とする。

### 2. 期間・場所

日時：平成22年10月27日 (水) 13時～

28日 (木) 12時

場所：理学研究科附属臨海実験所

### 3. 参加者等

講師：山口信雄 (臨海実験所)

受講者：フィールド系部門 8名

### 4. 研修内容

10月27日 (水)

13:30 臨海実験所前に集合

13:30 ~ 14:00 連絡事項など

14:00 ~ 17:00 実験所見学

(可能であればウニの発生)

17:00 ~ 17:30 一日目のまとめ

18:00 ~ 20:00 懇親会 (BBQ)

20:00 ~ 21:30 ウミホタルの採集・観察

22:00 就寝

10月28日 (木)

6:30 起床

7:00 ~ 8:30 海洋生物採集

9:00 ~ 11:30 採集生物の分類

11:30 ~ 12:00 写真撮影・まとめ

### 5. 所感

今回の研修では同じ部門でも所属班が違っているとどんな仕事をしているのか、どんなところで仕事をしているのかなど、知らないことを知ることができ大変充実した内容であった。また、実習では学生にする実習と同じように進めていた

だけだったので、実際に自分が実習をする際にも参考になった。今後もこういう機会があれば積極的に参加して行きたい。

## 「自由・機械研削といし取替業務特別教育」受講報告

平松正太郎(工作部門土木建築実験機器管理班)

### 1. はじめに(目的等)

試験体等の研削や切断には研削盤(グラインダ)を使用するが、研削といし(切断といしを含む)の取替え及び試運転を行うには「自由・機械研削といし取替業務特別教育」を受講する必要がある、この度受講した。

### 2. 期間・場所

期間 学科教育：平成22年8月2日、3日  
(実技は各事業場で実施 工学研究科実験棟で下川久義 技術専門職員の指導の下、平成22年8月6日に実施)

場所 広島県労働基準協会広島中央支部  
広島市林業ビル8階中教室

### 3. 参加者等

受講者 35名程度

### 4. 研修内容

学科教育：研削盤に関する基礎知識、研削といしに関する基礎知識、研削といしの取り付け具に関する知識、といしの覆い・保護具等に関する知識、研削油剤に関する基礎知識、研削といしの取付けと試運転の方法、災害事例と関係法令

実技教育：機械・自由研削用といしの取り付け方法及び試運転の方法について

### 5. まとめと感想

今回の講習はグラインダ等の使い方ではなく、といしの取替えと試運転の方法を学ぶものであった。グラインダは技術員の他にも、教員・学生など多くの人が使用する。高速回転しているとといしの破壊は即重大事故につながるの、使用者の安全を守るためにも、平日頃からの適

正な整備や管理、試運転を行う事が最も重要であると感じた。

## 第28回献体実務担当者研修会及び解剖・組織技術研究会第8回研修会出席

桂 由香理(技術センター 医学系部門基礎社会医学班 技術員)

### 1. はじめに(目的等)

本研修会では各団体・大学における献体業務の実務担当者あるいは解剖の技術職員が参集し、献体業務における問題点等を指摘し合い、相互の情報交換や討論を行う。他大学の献体業務における現状や問題点、改善策等を情報収集することを目的として参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年10月29～30日  
場所：日本歯科大学新潟生命歯学部 8号館  
会議室(新潟県新潟市)

### 3. 参加者

第28回献体実務担当者研修会：136名  
解剖・組織技術研究会第8回研修会：解剖・組織技術研究会会員等約30名

### 4. 研修内容

29日の午後から第28回献体実務担当者研修会に出席。「献体と人体解剖における倫理の問題」をテーマとし、計3題の講演を聴講。その後、この講演内容を基に総合討論が行われた。

30日は終日解剖・組織技術研究会第8回研修会に出席。午前は平成22年度解剖・組織技術研究会総会が行われた後、教育講演を1題聴講。午後からは全体討論として「遺骨返還に関すること」と「お骨に関する様々な問題」の2題について活発な意見交換が行われた。

### 5. まとめと感想

第28回献体実務担当者研修会では、献体や人体解剖における倫理的な問題や考え方について討論が行われた。今回の研修会では「成年後見制度」についての話題が上がったことが印象に残っており、「生前の意志に基づかない献体」は倫理的にも教育的にも良いとは言えず、大学

で解剖される遺体は篤志献体が望ましいということを再認識した。解剖・組織技術研究会第8回研修会では「遺骨返還に関すること」を主に、現場で働く技術職員の生の声を多く聞くことができた。遺骨返還にしても各大学で様々な方法を取っていたが、それに伴う問題点や悩みは共通しており、互いに意見交換し合うなど非常に有意義な研修会であった。この2日間の研修会で考えたことは、今後の献体業務に活かしていこうと思う。

### 生物科学班第2回勉強会実施報告

塩路 恒生(フィールド科学系部門 生物科学班)  
宇都 武司(フィールド科学系部門 生物科学班)  
川北 龍司(フィールド科学系部門 生物科学班)  
向井 誠二(フィールド科学系部門 生物科学班)

#### 1. はじめに(目的等)

フィールド部門生物科学班の今年度の2回目の勉強会として行った。臨海実験所の施設を見学し実際の業務等を体験することにより、各自の知識を深め、さまざまな知識を習得し、さらに普段なかなか接することのできないメンバーの交流・親睦を深めることを目的としてこの勉強会を実施した。

#### 2. 期間・場所

期間：平成22年10月27日、28日  
場所：理学研究科附属臨海実験所

#### 3. 参加者等

参加者：9名(講師1名、受講者8名)  
フィールド部門 窪田、山口(哲)、仲井、  
東脇、宇都、川北、向井、  
塩路、山口(信)

#### 4. 研修内容

臨海実験所の山口信雄技術主任を講師として、2日間の勉強会を行った。

##### 1日目

- ① 海洋生物の採集
- ② 講義：海洋生物の分類について
- ③ 実験所の施設見学

- ④ 観察：ウニの発生
- ⑤ ウミホタルの採集・観察

##### 2日目

- ① 海洋生物の採集
- ② 採集した生物の分類

#### 5. まとめと感想

今回は、生物科学班だけでなく、フィールド部門全体からの参加があり、活気のある勉強会となった。

主な内容としては、臨海実験所における実習プログラムに沿って、実際に実験所で行われている実習の一部を体験した。また隔離地ならではの業務・実験所特有の業務についても、説明を受け理解を深めた。1日目の研修後、親睦会において意見交換を行ったことは、今後のお互いの業務に非常に有意義であったと感じた。

### ボイラー取扱技能講習受講報告

塩路 恒生(フィールド科学系部門 生物科学班)

#### 1. はじめに(目的等)

現在、私の勤務している植物管理室では、冬季に温室の暖房用として温水ボイラーを100日間稼動している。私に取り扱っているボイラーは小型のボイラーではあるが、その取扱いや保守管理を誤ると破損や火災等の災害を引き起こす可能性がある。また常にボイラーを正常に運転するためには、ボイラーに関する知識や技能を正しく修得することが必要となる。取扱技能講習を受講することで、これらの基礎知識を理解し、職場の災害防止に役立てたいと考え、今回受講した。

#### 2. 期間・場所

期間：平成22年9月28日、29日  
場所：広島商工会議所

#### 3. 参加者等

受講者：19名

#### 4. 研修内容

テキストを用いて、下記の内容について講義が行われた。

- 講習科目 ①ボイラーの構造に関する知識  
②ボイラーの取扱に関する知識  
③点火及び燃焼に関する知識  
④点検及び異常時の処置に関する知識  
⑤関係法令

\*講義終了後に修了試験を受験した。

## 5. まとめと感想

今回の取扱技能講習を受講して、ボイラーの構造、取扱いなどについて知識を深めることができた。特にボイラーの点火と燃焼のしくみについて正しく理解できたことは今後のボイラーの運転の際に非常に役立つと考える。また関係法令については初めて聞く事項もあり、参考になった。あわせてボイラーの整備や点検についても、日常の作業を怠ることのないように安全衛生に努めたい。

講義の最後に行われた終了試験に合格し、後日終了証の交付を受けた。

## 普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習会参加報告

笹谷 晋吾(技術センター 共通機器部門 放射線管理技術班 技術員)

### 1. はじめに (目的等)

放射線施設では第1種圧力容器とされる機器があり、このような機器の管理には労働安全衛生法に基づき、普通第1種圧力容器取扱作業主任者等の資格が必要なため普通第1種圧力容器取扱作業主任者技能講習会に参加した。

### 2. 期間・場所

期間:平成22年11月18日(木)～11月19日(金)

場所:広島商工会議所

### 3. 参加者等

約100名

### 4. 研修内容

圧力容器による災害防止のために圧力容器の構造、性能、取扱いに関する知識及び圧力容器に係る法令についての講義があり、その後修了試験があった。

## 5. まとめと感想

普段何気なく使用している圧力容器について、体系的に学ぶことができた。また全国で発生している圧力容器に係る事故例では、人命に影響する事例が多く、また主な原因として誤操作など人為的要因があげられており、圧力容器の管理の難しさを感じた。

## 刈払機取扱作業安全衛生教育講習会参加報告

仲井 敏(フィールド科学系部門)

### 1. はじめに

今年度より部局用務員枠の削減でこれまで行ってきた管理施設周辺の清掃作業に加えて除草作業や伐木等の作業も行う必要が発生した。事業者の講ずべき措置として労働者をこれらの作業に従事させる場合には安全衛生教育を行う義務がある。また、自らも安全な作業を行う為に正しい知識を身につけたいと考えた。そういった理由のもとに今回の講習会を受講することとなった。

### 2. 参加日時および場所

2010年5月19日(水曜日)9:00～16:00

広島北部地域職業訓練センター

(三次市酒屋町306-69)

### 3. 講習内容

講義

刈払機に関する知識

刈払機を使用する作業に関する知識

刈払機の点検及び整備に関する知識

災害事例

振動障害及びその予防に関する知識

関係法令等

実習

刈払機の使用前・使用後点検

刈払機の週毎点検

刈払機の月毎点検

修理の事例等

### 4. まとめと感想

講義は口頭とビデオによって行われたので解



り易かった。また、上記の講義内容以外にも災害時の対応や応急処置などの説明も行われたので実際に作業を行う上で大いに有益であった。実習についても実際に現場で活躍しておられる方が講師なので実習内容には機械の整備や故障への対応を効率よく行えるような配慮があった。これからは植物の生長が激しくなる時期に入るので講習で学んだ事を生かし効率よく、且つ、安全にも留意して業務を行いたい。

### 技術センター専門分野別技術研修参加報告

仲井 敏 (フィールド科学系部門)

東脇 隆文 (フィールド科学系部門)

#### 1. はじめに

今回の研修会はフィールド科学部門スタッフの相互理解と自らの科学的視野を広げる事を目的として行われた。

#### 2. 参加日時および場所

2010年10月27日 (水曜日) ~

2010年10月28日 (木曜日) までの2日間

広島大学大学院理学研究科附属臨海実験所  
(尾道市向島町2445)

#### 3. 研修会の内容

臨海実験所の見学とスタッフの紹介

ウミホタルの採集と観察

海洋生物採集と分類

#### 4. まとめと感想

2日間に渡る研修会で、水生生物の多様性について学んだ。分野の異なる我々に理解できるような解りやすい講義とサンプルを用いた実習。また実際に海岸を歩いて目にした様々な生物を採集する野外活動と、それを分類し名称を判別する作業は大いに有益であった。フィールド科学系部門のスタッフはそれぞれが全く異なる分野で活躍しているだけに研修会で学んだ事は直接、業務に生かすことは難しいが、それだけに教える側も学ぶ側も相互に工夫する姿勢が必要となる。こういった事はどの分野にも該当する心構えであると思う。最後に今回の研修会

開催に当たってご尽力下さった同部門生物科学班の山口技術員をはじめとする臨海実験所スタッフにこの場を借りて謝辞を申し上げたい。

### 「フォークリフト」受講報告

京泉 敬太 (工作部門 土木建築実験機器管理班)

#### 1. はじめに (目的等)

工学研究科実験棟などで、実験機材や実験材料の運搬にフォークリフトを使用する事があるため1t以上のフォークリフトを運転する際には「フォークリフト技能講習」を修了する必要がある、この度受講した。

#### 2. 期間・場所

期間 学科講習：平成22年6月22日

実技講習：平成22年6月23日～25日

場所 備南自動車学校 松永教習所

#### 3. 参加者等

受講者 学科講習は5名程度

実技講習は5名

#### 4. 研修内容

学科講習：フォークリフトに関する概要 機能、力学に関する知識、関係法令等

実技講習：フォークリフトの実技講習

#### 5. まとめと感想

フォークリフト操縦は、今回初めて操縦したため現場では不慣れだと思うが実技講習で教わった事を着実にやりながら日々の業務を行って行きたい

### 「VMwareによる仮想化環境構築」受講報告

寸田 祐樹 (共通機器部門 情報基盤機器管理班)

#### 1. はじめに (目的等)

昨年度までの学外研修において、ネットワークの構成に関する実践的な技術を学んだ。今年度はより実務的な内容に絞り、業務依頼先で管理・運用の補助を行っているVMware社のハイパーバイザー型仮想環境に関する知識及び技術の向上を図るべく、受講を希望した。

## 2. 期間・場所

期間：平成22年9月30日，10月1日

場所：株式会社名古屋ソフトウェアセンター

## 3. 参加者等

企業等においてシステムやサーバの管理に携わり仮想化環境に興味を持つ者，10名

## 4. 研修内容

- ・仮想化技術の概要，メリット及びVMwareの製品体系
- ・ホスト型の仮想化製品であるVMware Server 2.0.2のインストール，仮想マシンの作成，コピーした仮想マシンのインポート，仮想NICの追加によるネットワークの構成
- ・ハイパーバイザー型の仮想化製品であるVMware ESXi 4.1とVMware vSphere Client 4.1のインストール，ストレージ（NFS）の追加，スナップショット機能，仮想スイッチによるネットワーク構成
- ・仮想環境の統合管理を行うVMware vCenter Server 4.1のインストール，VMotionと仮想マシンのクラスタ構成

## 5. まとめと感想

今回の講習では，現在使用している製品とはバージョンこそ異なるもののハイパーバイザー型の仮想化に関するメリットの再確認や，仮想環境の統合管理製品でなければ出来ないことが確認でき，また普段使用している時に感じた疑問点なども数多く質問することで解消できた。1日目のアンケートで，仮想マシンイメージのコマンドでのバックアップ法の実践を希望したが，研修内容から逸れるため叶わなかった。しかし，持ち帰った教材「VMware 徹底入門」は充実した内容であるため，これを利用し更に理解を深めたい。

## 平成22年度日本水産学会秋季大会に参加して

岩崎 貞治（フィールド科学系部門生物生産技術班 技術員）

### 1. はじめに

日本水産学会秋季大会は，日本における水産

学関係者が一同に会する場であり，水産学という括りの中，様々なジャンルの方々が参加していた。本大会では，今まで行った実習等における蓄積したデータを水産教育という分野にてポスター発表を行うことを目的とし参加した。また，シンポジウムや口頭発表の聴講を積極的に行い，こういったことを課題に研究や教育が進められているのか知ることで今後の業務に活かせることがないか情報を収集した。

## 2. 期間・場所

期間：平成22年9月22日～25日

場所：京都大学吉田キャンパス

## 3. 参加者

大学，高専，研究機関，水産関係の企業など1000名以上

## 4. 研修内容

「浅海域における生物調査のフィールド教育への応用」というタイトルでポスター発表を行った。また口頭発表・シンポジウムでは主に水産教育・増養殖・環境に関するものを聴講した。

## 5. まとめと感想

発表には多くの方が足を運んで下さり，貴重な意見や他大学での取り組みなど非常に参考になるアドバイスを戴いた。

また，口頭発表やシンポジウムを聴講した感想として，日本は魚介類の消費大国であるにも関わらず，その6割を輸入に頼っている状態であり，漁業従事者は20年前の半分にまで減っている。経済成長とともに日本近海における捕食圧の高さ・環境条件の悪化が進んだことで魚介類の量が減ったことも影響しているが，世界中で魚の需要が増している現在，日本における持続可能で安定生産できる漁業手法・ルール・教育が必要であると切に感じた。

## 2010年度機器・分析技術研究会に参加して

石原 正文（技術センター 工作部門）

### 1. はじめに（目的等）

本研修出張は，東京工業大学にて開催された

2010年度機器・分析技術研究会に参加し、他機関の教育・研究に関する支援体制の技術発表を聴講および情報交換をすることで、教育・研究支援のためのスキルアップを図ることを目的とした。

## 2. 期間・場所

期間：平成22年9月2日、3日

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス  
(東京都目黒区大岡山2丁目12-1)

## 3. 参加者等

国立大学法人・大学共同利用機関・国立高等専門学校機構などの技術職員 257名

## 4. 研修内容

2010年度機器・分析技術研究会は全国の国立大学法人、高等専門学校及び大学共同利用機関の技術系職員による口頭発表25件、ポスター発表56件の発表があった。技術の研鑽向上を図る研修の場として高く評価されている。その発表内容は、機器分析技術、環境測定装置等に伴う安全衛生、装置開発における高度な工作技術など広範囲でかつ技術的な教育・研究支援活動の発表があった。

## 5. まとめと感想

口頭発表の【「機器・分析研究会」と「国立大学法人機器・分析センター会議」について】では、研究会の生い立ちから現状及び機器分析に係わる技術職員の諸問題について報告された。その内容としては、法人化後、定員削減に伴い各大学における技術職員の一元化、組織化によって、効率的な配置を行うと伴に組織をあげて技術の伝承を行える体制づくりと短期的に高度な技術を修得するように要求されている問題点が挙げられた。このような問題は、大学内のみならず全国というレベルから見つめることも重要であり、情報を共有するためにも関係分野での技術支援者の全国的なネットワークが、必要であると実感した。また、全国的な研究会に参加したことにより各大学の技術職員との情報交換を行うことができた。

## 第六回ガラス工作技術シンポジウム参加報告

佐藤 勇 (工作部門)

藤原 雅志 (工作部門)

### 1. はじめに

国公立機関等に勤務している理化学ガラス技術者として、ガラス加工技術の継承と発展をめざして、担当する部局の行う研究実験に対応できるように知識を深めるとともに、理化学ガラスに携わる技術者及び研究者との交流を深めることを目的とした。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年9月9日、10日

場所：北海道大学 百年記念会館

### 3. 参加者等

大学、研究所、民間会社の理化学ガラスに携わる技術者及び研究者 約50名

### 4. 研修内容

記念講演・技術報告・学内施設見学。技術報告では新しく導入した機器の紹介や、製作した機器についての発表をした。

### 5. まとめと感想

本会に参加し、多くのガラス技術者と交流することができた。最近では若い技術者が増えており、定年を迎えた技術者の後もしっかりと補充があることで世代交代ができていることを実感した。ガラス技術者同士が直接話し合える機会は貴重なので、本会が技術の継承や若い技術者のモチベーション向上につながっているように思う。

また、北海道大学のガラス工場の設備や、学内施設を見学することができ、全体的にとっても充実しているように感じた。

本会に参加し、意見交換や施設見学を通じて、今後の業務に対しとても良い刺激を受けたので、それをこれからの業務に生かしていきたい。

## 第43回日本臨床細胞学会細胞検査士資格1次試験報告

法村 真一（医学部部門 基礎社会医学班）

### 1. はじめに（目的等）

細胞検査士試験を受験し合格する事で仕事の幅を広げ、また細胞形態学に関する知識・技術を身につけスキルアップを図る事を目的とする。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年10月24日

場所：大阪 チサンホテル新大阪

### 3. 参加者等

受験者：約700名

### 4. 試験内容

カラーアトラス細胞判定試験 60問（60分）  
筆記試験 総論20問，技術20問，体腔液その他20問，消化器20問，呼吸器20問，婦人科20問 総計120問（120分）

### 5. まとめと感想

この試験は1次，2次があり合格率は約30～40%と低く中途半端の勉強では受かる事が出来ない試験である。今回，初めて細胞検査士試験を受けたが非常に幅広い範囲から出題されており，試験時にかなり困惑したが過去問より多少出題されており何とか筆記試験はクリアできた。また細胞判定試験は研修会等を利用して今までに何百種類もの標本を見てきており，その為，細胞判定試験は余裕で解く事ができた。

4月初めから勉強し土曜も返上して1次試験対策や標本の鏡検を行い，夢にも細胞が出てくる日々であったが，学会の速報によると1次を何とか合格する事が出来た。次は12月に2次があるのでそれに向けてまた頑張っていきたい。

## ～ Thermo Fisher Scientific 質量分析計ユーザーズフォーラム～

網本 智子（共通機器部門）

### 1. 目的

平成22年3月に自然科学研究支援開発センター物質科学機器分析部に高性能ハイブリッド

型質量分析システム（サーモフィッシャーサイエンティフィック製）が導入された。この装置に関する業務全般（依頼測定・講習など）を担当するにあたり，測定技術の向上，装置の維持管理に必要な情報収集を目的として参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年7月13日（火） 10:30～17:00

場所：大阪府豊中市 千里ライフサイエンスセンター

### 3. 参加者等

主に Thermo Fisher Scientific の質量分析装置のユーザー 約200名

### 4. 研修内容

基調講演：電気通信大学名誉教授

大橋守 先生（オワンクラゲ生物発光）

全体講演：Thermo Fisher Scientific 社 Iain Mychreest, Ph.D.(最先端技術の紹介)

特別講演：神戸大学 吉野健一 先生

（質量分析用語について）

テーマ別分科会より：

- ①「新製品情報のご紹介」
- ②「超音波分解を利用した合成高分子の質量分析」
- ③「イオントラップ，ハイブリッド型質量分析計」
- ④「SRM法を用いた血清中の診断マーカー候補ペプチドの定量分析」

### 5. まとめ

担当装置と同じ（または類似の）装置を使った最先端の研究の一部を知ることができ，現在の使用範囲（主に合成した有機化合物の分子量確認）に有効な情報だけでなく，バイオ系分野での活用例や，それに必要な解析ソフトなどの情報を得ることができた。特別講演の「質量分析用語」においては，これまで質量分析に携わりながらも理解が曖昧だった部分が明確になり，改めて勉強になることも多かった。今回得ることができた情報を，依頼測定や講習会等を通じて利用者に還元していけるようにしたい。

## 第44回日本実験動物技術者協会全国総会参加報告

畠山 照彦（医学系部門生命科学実験班）

### 1. はじめに（目的等）

本総会で、これまでに行ってきた実験のデータをポスター発表の形式で成果発表した。さらに、実験動物関係の最新技術等の情報を収集し、今後の業務に生かしていきたいと考え、本総会に参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年9月3日（金）～4日（土）

場所：旭川市民文化会館（北海道旭川市）

### 3. 参加者等

日本実験動物技術者協会会員、非会員及び学生等

### 4. 研修内容

※別紙：開催案内参照

### 5. まとめと感想

今回、『性成熟過程における雄マウス体外受精能の検討（精巣間の成熟程度の差について）』というタイトルで、ポスター発表を行った。発表方法は、座長の司会で1演題につきプレゼンテーション2分、質疑2分の計4分間で行われた。全体の発表が終了後、10分間のフリーディスカッションの時間が設けられた。発表後、聴講者からは多くの質問があり、活発な議論を行うことができた。また、日頃業務で携わっている、マウスの生殖工学関連の演題を聴講し、今後の業務において応用できそうな情報を得ることができたので、活用していきたいと考える。

## 「リレーショナルデータベース論理設計（基礎編）」受講報告

原 憲行（共通機器部門情報基盤機器管理班）

### 1. はじめに（目的等）

データベースを扱うには、そのデータベースが何を目的としてどのようなデータを蓄えているのかを理解していなくてはならない。正規化やERモデルといった手法は、データベース構造の効率化および記述のための基礎的なもので

ある。これら二つの手法についての理解を深めたいと考え、この度受講した。

### 2. 期間・場所

期間 学科教育：平成22年8月19日、20日

場所 関西ラーニングセンター

（TWIN21MIDタワー12階）

### 3. 参加者等

受講者 20名程度

### 4. 研修内容

- ・データベース設計の流れと基礎的な諸概念について
- ・ERモデルについて。演習あり
- ・正規化の意味と手法について（第三正規形まで）。演習あり
- ・概念設計、論理設計の手法について。演習あり

### 5. まとめと感想

要件定義で得られたデータの組、および組同士の関係構造を整理するためのモデルがERモデルであり、組の再編成をして重複を除去するための方法が正規化である。正規化によりERモデルの作成が容易になるということが、演習を繰り返すことでしっかりと理解できた。グループ演習もあり、他者の考え方に触れることが出来たのも、理解を深める助けになったように思う。設計におけるミスは後の作業に大きく響くものであり、慎重に取り組む必要がある。今後も研鑽を続けていかななくてはならないと感じた。

## 第38回九州細胞診研修会を受講して

法村 真一（医学部系部門基礎社会医学班）

### 1. はじめに（目的等）

講義、実技ともに内容が濃く、幅広い分野の標本が網羅され、日常経験できない稀な標本も見ることができる有意義な研修であり、知識、技術力を高めることを目的とし参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年9月18日～20日

場所：福岡大学医学部基礎第1講義室・組織  
実習室

### 3. 参加者等

参加者：90名

（細胞検査士を目指す者。九州全土と広島県からは支部長推薦により9名）

### 4. 研修内容

肺腫瘍の病理、乳腺の非腫瘍性病変・腫瘍性病変 - 細胞診・組織診との比較 - についての講義を一日目に行い、2日目、3日目に鏡検実習を行った。鏡検実習は90症例を1症例当たり4分でスクリーニングし良悪性判定する実習と、標本に丸が書いてあり、その範囲の中の細胞を1分で同定する実習を行った。そして夜にはナイトセミナーを行い細胞の診断ポイントについての講義が行われた。

### 5. まとめと感想

今回の研修会は、朝9時から夜までひたすら鏡検し解説、ポイントの説明と凄く濃い研修内容であった。日頃見ることのできないような症例や、最近増えてきている悪性腫瘍の細胞など幅広く網羅された細胞診標本を鏡検する事ができ凄く意義の高い研修会だった。講師の先生方も非常に親切で分からない細胞があった時は理解出来るまで1対1で指導してもらい、色々な知識を得る事が出来た。

## JEOL 第33回 NMR ユーザーズミーティング参加報告

藤高 仁（共通機器部門 共通利用機器管理班 技術専門職員）

柿村 順一（共通機器部門 共通利用機器管理班 技術主任）

### 1. はじめに（目的等）

自然科学系分野における核磁気共鳴装置（以後 NMR と略す）の操作・保守管理の基礎知識と共に最新の分析技術の習得及び意見交換を行い、教育・研究支援のためのスキルを向上させることを目的として参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年12月2日

場所：メルパルク京都（京都市下京区東洞院  
通七条下ル東塩小路町676番13）

### 3. 参加者等

大学、研究所、民間会社の NMR 分析に携わる技術者及び研究者 約100名

### 4. 研修内容

聴講した講習・講演の内容は以下の通りである。

NMR のデータ処理の基本、固体 NMR の基礎・最新測定技術、定量 NMR 技術の紹介、製品紹介、界面活性剤分析への応用、ナノ不均一溶液系の動的構造解明。

### 5. まとめと感想

NMR を利用した定量法の説明を受け数値化された比較的正確な定量が可能となり有効に活用できることを学んだ。

また基礎講座ではデータ処理に関する技術を学び、分析装置の機能を十分に引き出す技術を習得した。このたびの研修を受けた事により今後の業務遂行に際して大変役立つスキルを身に付ける事が出来たと考える。（藤高）

これまで NMR を扱う経験が無かったため、基礎的な内容の講習と共に、様々な資料を入手することができたことは非常に有意義であった。さらに最新の測定技術の講演を聴講し、NMR の応用範囲の広さと重要性を改めて実感することができた。今回の研修を、より幅広い教育・研究支援業務の礎としたい。（柿村）

## 2010年度機器・分析技術研究会に参加して

藤高 仁（共通機器部門）

### 1. はじめに（目的等）

機器・分析技術研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立つため出席した。また本研究会の今後の予定を協議する地域代表者会議に出席した。

## 2. 期間・場所

期間：平成22年9月2日・3日

場所：東京工業大学・大岡山キャンパス

## 3. 参加者等

大学，高等専門学校，大学共同利用機関等の技術職員257名

## 4. 研修内容

東京工業大学大岡山キャンパスにある東工大蔵前会館にて開催され，特別講演「“ゾウの時間ネズミの時間”から技術について考える」と題して大学院理工学研究科 教授 本川 達雄夫先生のお話があった。その後口頭発表29件，及びポスター発表55件が行われた。

また本研究会地域代表者会議に出席し本研究会の開催事項について協議を行った。

## 5. まとめと感想

全国の学術機関に所属する技術職員が一堂に会し日頃の業務にまつわる創意工夫を聞くことができ大変有意義であった。

担当装置についての発表も複数あり今後の装置維持管理や測定サービスに大変役立つ情報を得る事ができた。

また地域代表者会議に参加することで今後の研究会運用に関する有益な情報を得る事ができた。

## 学外研修報告

矢吹 祐司（工作部門）

### 1. はじめに（目的等）

機器・分析技術研究会に参加し、『人力飛行機駆動系の紹介と製作』について口頭発表することと研究会に参加された全国の技術職員と技術交流し日常の業務遂行に役立てることを目的として出席した

### 2. 期間・場所

期間：平成22年9月2日・3日

場所：東京工業大学大岡山キャンパス 東工大蔵前会館「くらまえホール」

### 3. 参加者等

大学，高等専門学校，大学共同利用機関等の技術職員 約260名

東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授 本川達雄先生の（「ゾウの時間ネズミの時間」から技術について考える）特別講演の後，口頭発表29件，ポスター発表56件が行われた。

### 5. まとめ

機器・分析技術研究会に参加し，口頭発表も有意義だったが，東京工業大学の設計工作センターと精密工作センターの技術職員と意見交換が出来たことと，研究会受付時間より早く着いたので，ものづくり教育研究支援センターと機械系工作実習の技術職員と意見交換することができた。特に，ものづくり教育研究支援センターの技術職員との意見交換は，私の配属先の学校工場のフェニックス工房運営業務に大変役に立った。



ものづくり教育研究支援センターの展示コーナー

## 平成22年度第2回情報処理技術セミナー受講報告

三原 修（共通機器部門 情報基盤機器管理班）

### 1. はじめに（目的等）

国立情報学研究所（NII）が提供している学術認証フェデレーション（学認：GakuNin）では，Shibboleth 環境によるシングルサインオン（SSO）技術を用いて，参加している各機関（大

学等)で保有する資源の相互利用を実現している(詳細は<https://upki-portal.nii.ac.jp/docs/fed>を参照)。

このフェデレーションに参加するためには、機関内において Shibboleth 環境の構築を行い、その運用に必要なサーバ構築の技術を修得することが求められている。今回、NII が主催する標記のセミナーを、選考の結果幸いにも受講することができたため、以下報告する。

## 2. 期間・場所

期間：平成22年11月15～16日(2日間)

場所：NII 20F 実習室(千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内)

## 3. 参加者

大学・高専に所属する職員(受講者数：17名)

## 4. 研修内容

VMware 上に CentOS がインストールされた実習用端末(Windows XP のシンクライアント)を使用して、Shibboleth に基づく IdP (Identity Provider) および SP (Service Provider) の構築実習を行った(実習のテキストおよび GakuNin の技術ガイドは<https://upki-portal.nii.ac.jp/docs/fed/technical>)。

なお、研修初日(1日目)は、実習に先立って学術認証(Shibboleth 環境)のフェデレーション構築に関する講義が行われた。さらに実習の合間には、SSO の事例としての Microsoft Dream Spark (<https://www.dreamspark.com>) の紹介が、10分程度行われた。

## 5. まとめと感想

Shibboleth 環境におけるフェデレーション構築では、サービス利用者側が用意する IdP、サービス提供者側が用意する SP の他、登録されている IdP を検索するためにフェデレーションが用意する DS (Discovery Service) が必要であり、これらを通して個々の属性情報がやり取りされている。特に大学等(主にサービス利用者側)としては、IdP における設定(制御)管理に注意を要する。

また実習において、自分の場合は誤った設定によってうまくいかずに時間を費やしたが、どうにか自作 IdP と自作 SP の間で通信が成功するところまでできたため、理解を深められた。

## 第22回(平成22年度)情報処理センター等担当者技術研究会 参加報告

勇木 義則(技術副統括)

吉田 朋彦(共通機器部門・技術班長)

三原 修(共通機器部門・技術員)

### 1. はじめに(目的等)

この研究会では、主に大学等の情報基盤系の機関に所属する職員が集まって技術報告(研究発表等)や積極的な意見交換が行われている。そのため、本学からも毎年、情報系の技術職員が可能な限りこの研究会に参加して情報収集と情報提供を行っているところである。

### 2. 期間・場所

期間：平成22年9月16～17日(2日間)

場所：名古屋工業大学

(名古屋市昭和区御器所町)

### 3. 参加者

大学等に所属する技術・事務職員 約90名

### 4. 研修内容

(1日目)

- ・基調講演(名古屋工業大学情報基盤センター長 松尾 啓志氏)の聴講
- ・職員発表(技術報告)の聴講(12名)

(2日目)

- ・職員発表(技術報告)の聴講(5名)
- ・当技術研究会のメーリングリスト管理と今後の開催(運営)に関する意見交換
- ・名古屋工業大学情報基盤センターの施設見学(※希望者のみ)

### 5. まとめと感想

(勇木)当研究会は、関東甲信越地区における国立大学等情報系センターの担当技術職員有志による情報交換の場としてスタートした。自校にフィードバックし易い現場視点の実運用レ



ベルでの研究会として口コミで広がり、今や北海道から沖縄まで全国各地から参加する全国規模の研究会として発展している。“来る者は拒まず、去る者は追わず”の精神のもと、基本的には規約等は設けず、参加者の自主性による開催運営が行われてきたが、規模の拡大とともに自主性の限界が見え始めていた。こうした背景を受けて、関東甲信越地区の発足者等有志の方々が中心になってこの課題に関する検討がなされ、私は19回（広大開催）を担当した立場で、この検討会に参画してきた。検討結果として、今回（22回）の意見交換にて、開催校の予定制およびブロック制の運用案を提議した。いずれも承認され、同時に、広島大学は中国四国ブロックの世話人として開催運営に参画することとなった。今後、当研究会の発展に努めたい。

（吉田）本研究会も22回目となり、今回は参加者が100名近くにもなった。ますます活気ある研究会となっており、毎回大いに啓発される。今回多かった話題は、システム更新報告以外では「統合認証」、「シングルサインオン」、「無線LANサービス」であった。共通点は「認証」であると思われる。本学でも、ICカードの導入

をはじめ、認証基盤は着々と整備されつつあるが、他校の実態と運用技術を詳細に知ることができた。他方、今後はますます大学職員が職種による縦割りを改め、目的達成のために、関係者で連携しなければ、という思いを強く持った。またさらに、大学間での共同開発・共同利用等も進めていく必要があると思われた。

（三原）この研究会では、情報基盤系の業務に携わる職員が積極的な情報交換を行うことにより、各機関で抱えている問題意識の共有や業務に対するモチベーションの向上が図れる場である、と今回参加して改めて実感した。今回発表のあった各機関における情報基盤に関する現状や取り組みについて知ることができた他にも基調講演や意見交換会を通して、情報系の職員は山積する問題に今後どう対応すべきかについて説明や議論があったことが、とても参考になった。また施設見学会にも参加したが、教育用端末室におけるICカードの普及の様子や学内基幹ネットワークの構成等が紹介され、他学の情報基盤の実態を知る貴重な機会でもあったと思っている。